

日常で活用する能力を育む小学校家庭科の 授業づくりの試み

キーワード：・日常生活で活用する能力・実践的・体験的な活動・住まい・清掃
・基礎的・基本的な知識・技能

佐藤 郷 美

要 約

家庭科では、従来から衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的な知識・技能と家族の一員としての生活を工夫しようとする実践的な態度を育てることを目標としてきた。

家庭科の学習方法の特質として、「実践的・体験的な活動を通して行う」ことがあげられるが、そこで、日常の学校生活で毎日行われている「清掃活動」に着目し、卒業を間近に控えた6年生が学習した内容をもとに「学校ピカピカ作戦」を行い、学校をきれいにして卒業するという愛校心を育むとともに、自分たちが実践した掃除方法を下学年にも伝える目的で「掃除の達人ポスター」の作成を行い、家庭生活を含む日常生活にも活用できる力を育む授業づくりに取り組んだ。その結果、児童は整理・整頓や汚れの種類に応じた清掃を実践するなど、身の回りを快適にして生活しようとする姿勢の高まりが見られた。

I はじめに

家庭科では、従来から衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的な知識・技能と家族の一員としての生活を工夫しようとする実践的な態度を育てることを目標としてきた。

家庭科の学習方法の特質として、「実践的・体験的な活動を通して行う」ことがあげられるが、実習や観察、調査などを通して学習することによって、日常生活に活用できる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、生活における自立の基礎を培うことができると考えられる。また、家庭科においては、身近な生活の課題を解決する能力を身に付け、家族の一員として、家族や近隣の人々と協力して家庭生活を一層楽しく、よりよくしようと工夫する能力と実践的な態度や豊かな人間性を育てることをねらいとしている。

以上の家庭科の教科としての目標や特質を踏まえながら、日常で活用する能力を育むことに効果的な授業づくりを試みた。

1 日常生活で活用する力を育む

(1) 学習指導要領実施状況調査から見た課題

「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査」では、ペーパーテスト調査については、「思考力・判断力・表現力等日常生活で活用する能力の育成」と「基礎・基本の習得」の二つの観点から問題を出題し、分析している。

本調査では、日常生活で活動する能力については、該当する19問のうち6問に

課題があり、具体的には米飯とみそ汁を中心とした一食分の献立にさらにみそ汁の実をひとつ加えて栄養のバランスのよい献立にする工夫を考えさせる問題に課題が見られた。

一方、一食分の献立に関わる基礎的・基本的な知識である「食品の栄養的な特徴」における食品の体内での三つの働きのうち、「主にエネルギーのもとになる食品」の問題と「主に体をつくるもとになる食品」の問題に課題が見られたが、この問題に正答している子供の方が「一食分の献立におけるみそ汁の実の工夫」を正答した割合が高く、栄養の基礎的・基本的な知識である食品の体内での主な働きを理解している子供の方が、一食分の献立を工夫する力を身に付けていると考えられる。

これらの結果から、日常生活で活用する能力を育み、身近な生活の課題を解決したり、家庭で実践したりできるようにするためには基礎的な・基本的な知識・技能を確実に身に付けることが重要であると考えられる。

(2) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける授業づくり

家庭科の授業づくりにおいて、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるためには、特に以下の点に留意する必要がある。

- ① 各題材で身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を明確した適切な実習題材を設定する。
- ② 指導計画の作成において、子供たちが身に付けている知識や技能の実態を把握し、課題を明確にして、題材の設定や構成に生かすようにする。
- ③ 知識や技能は適切な実践的・体験的な活動を通して身に付けるが、その際に「なぜそのようにするか」を理由とともに考えさせ、科学的に理解できるようにすることが大切である。
- ④ 知識や技能を確実に身に付けるために、適切な教材・教具の工夫が必要となる。経験が少ない子供たちに、自分で課題の解決ができるように学習環境を含めて整備すること、また活動において子供が手順や方法を確認できるようにすることも重要である。

⑤ 学習形態を工夫する

個別指導やグループ指導などきめ細かい個に応じた指導や学習形態を工夫することが大切である。これにより、技能の個人差や理解度の差に応じた指導を可能とすることができる。学校内でのティーム・ティーチングや地域の人材を活用し、グループごとに支援できる指導体制を整えることも考えられる。

⑥ 家庭・地域との連携を図る

家庭科で学習する基礎的・基本的な知識及び技能などは、家庭生活で活用することによって定着を図ることができる。家族の励ましは、子供の実践意欲をより高め、それにより技能も向上していく。子供を取り巻く環境に配慮しながら、家庭との連携を図り、家庭での実践の場を設定するように試みる。

2 学習指導要領内容項目 C(2)「快適な住まい方について」の指導について

- (1) ア「住まい方に関心をもって、整理・整頓や清掃の仕方が分かり、工夫できる」

ここでは、身の回りの物を片付けたり、清掃することによって気持ちよく生活できることに気づき、身の回りの整理・整頓の仕方や清掃の仕方が分かり、身の回りを快適に整えようと主体的に考え、工夫できるようにすることが求められる。

小学校学習指導要領解説（家庭編）では、以下のように記述されている。

○「住まい方に関心をもって」

整理・整頓や清掃の学習を通して気持ちよく生活するための住まい方に目を向けるとともに、家族の生活に進んでかかわろうとするようにする。同じような住まいでも、整理・整頓などの工夫によってその家族らしい住まい方が表れることや住まい方を考え清掃など手入れを工夫することによって、家族が楽しく快適に過ごせることに実感的に気付かせ、住まい方への関心を高めるようにする。

○「整理・整頓の仕方が分かり工夫できる」

児童の身の回りの物、例えば学習用具、本や雑誌、衣類、洗面所の用具などの整理・整頓を取り上げる。物を使う人や場所、その使用目的や頻度、大きさや形によって整理・整頓の仕方を工夫する必要があることが分かり、何がどこにあるか、必要な物がすぐに取り出せるか、空間を有効に使えるかなどの視点から工夫できるようにする。

○「清掃の仕方が分かり工夫できる」

児童が日常よく使う場所を取り上げるようにする。学校や家庭での体験を基に清掃について見直し、なぜ汚れるのか、何のために清掃するのかを考えさせるとともに、床や窓などの汚れの種類、汚れ方に応じた清掃の仕方が分かり、状況に応じた清掃の仕方を考え、工夫して適切な清掃ができるようにする。

○整理・整頓の指導

身の回りの物の分類の仕方や収納の仕方を考えるなど、児童それぞれの家庭生活に応じて工夫し、実践できるようにする。例えば、教室や家庭科室の学習机や引き出し、本棚やロッカーなど、学校の施設・設備を用いて実践する学習が考えられる。また、家族が共通して使う洗面所や玄関などを想定して工夫することや、家庭での様々な収納の工夫を発表し合う活動なども考えられる。

○清掃の指導

例えば、学校内での汚れ調べの活動などを通して、汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方を考え、身に付けるようにするとともに、汚れは時間が経つと落ちにくくなることや、住居洗剤は使い方の表示をよく見て使用する必要があることなどにも気付くように配慮する。また、家庭によって清掃の仕方が異なり、掃除用具やその使い方も多様であることから、学んだ内容を基に児童一人一人あるいはグループごとに課題を選択し、児童同士の発表や交流の場を設定するなどして、清掃の仕方について活用する力を育てる学習も考えられる。

○関連を図った指導

・D(2)「環境に配慮した生活の工夫」の学習との関連

市販の清掃用具や洗剤を使わずに工夫して清掃するなど昔から伝わる先人の知恵や児童の発想を生かして不要品を活用した学習も考えられる。

・A(2)「家庭生活と仕事」

家庭での清掃の経験をもとに、そこを使う家族の気持ちを想像したり、協力して

清掃をした感想を聞いたりするなど、実践する喜びや家族との関わりを感じながら学習を進めることも考えられる。

(2) 教科書における内容の取扱い

仙台市の小学校において使用されている開隆堂出版「小学校わたしたちの家庭科5・6」における内容項目C(2)の取扱いは以下の通りとなっている。

- ① その1 かたづけよう 身の回りの物 P25
 - 1 身の回りに目を向けよう 25
 - 2 整理・整とんをしよう 26
 - 3 物を生かすくふうをしよう 28

ここでは身の回りの物の整理・整頓について考えさせることをねらいに、散らかっている身の回りの写真から、整理整頓の必要性に気づき、物のしまい方や整理整頓の手順について示し、整理・整頓のチェック内容を以下のようにあげている。

- 必要な物と必要ではないものを分けることができた
- 使いやすく整とんできた
- 決めた置き場所に使った物をもどしている

また、次の教科書の項目5には「やってみよう 家庭の仕事」として

- 1 できることを増やそう P30
- 2 家族に協力して仕事をしよう 32

と、実践的な内容へつなげている。

- ② その2 クリーン大作戦 P74
 - 1 そうじのしかたを見直そう 75
 - 2 そうじのしかたをくふうしよう 76

さらにその2の取扱いとしては、なぜ掃除をするのか、今までの掃除を振り返らせ、学校におけるよごれウォッチングなどを行い、どのようなところにどのような汚れがあるのか調べさせる内容を取り上げている。さらに掃除には「はたく・はく・吸い取る・ふく」などの方法があり、掃除の手順と実行について詳しく図示している。また、そうじのための便利な用具や材料について示し、住宅用洗剤の使い方の安全への配慮、日常の体験から伝わりにくくなった現状を加味して「そうじのポイント」として、「そうじの手順は上から下へ」「かたいものはかたいもので、やわらかいものはやわらかいもので汚れを落とす」「汚れは水で落ちるか、洗剤が必要か、洗剤を使わない工夫は」などの記述の配慮も見られる。

以上の教科書の内容を踏まえながら、学校の実態に合わせた授業の構想を次のように試みる。

3 授業構想

これまでの内容を踏まえて、次のような授業構想を考えた。

着目したのは日常の学校生活の中で毎日行われている「清掃活動」である。6年生の児童は、1年次から指導を受け、基本的な「掃く・拭く」という決まった方法や手順を身に付けて、日々清掃を行っている。まじめに掃除に取り組む児童が多い一方で、汚

れの種類や汚れ方、場所に合った清掃の仕方が分かっていたり、よりよい掃除の仕方を見つけ出そうとする児童は少ない。そこで「上手に掃除ができるようになる」という願いのもと、段階を踏んで用具の用途や種類、手順の基本的なルールなど基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指そうと試みた。

また、卒業を間近に控えた6年生として、学校をきれいにして卒業するという愛校心を育むことと、自分たちが実践した掃除方法を下学年にも教えたいという思いのもとにポスターの作成も行いたいと考えた。

以上を踏まえて、平成26年度に在籍した南光台東小学校の平成26年度6年2組担任渡邊知子教諭が授業実践を行った。

4 授業実践 <南光台東小ピカピカ作戦～卒業前に、下学年に伝えよう～>

(1) はじめに



「なぜ、そうじをする必要があるか」と掃除の意義について児童に問い、「ダスキン掃除教育プログラム」の資料を活用し、掃除の意味「健康・快適・長持ち」について全体で考えた。

次に、児童が日常よく使う場所から、掃除が必要であると思われる箇所を児童たちに選択させた。また、その汚れや場所について、どのような掃除の仕方が適切であるのかを自分たちで調べるなど

して計画を立て、その計画を「南光台東小ピカピカ作戦」と称して実践することにした。

最後に、実践で学んだことを「掃除の達人ポスター」としてまとめ、児童同士の情報交換や校内の下学年の児童へ学びを発信する手段として活用を図った。

(2) 本題材の目標

- 整理整頓や清掃に関心を持ち、身の回りを快適に整えようとしている。
- 身の回りを点検し、課題を見付け、整理・整頓や清掃の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。
- 汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方について理解し、適切な清掃ができる。

(3) 本題材の指導計画（7時間）

<南光台東小 ピカピカ作戦>

時間	めあて	学習活動
1	室内のごみ・よごれ調べをする	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内のごみや汚れを観察する ・掃除の必要性について考える ・卒業を前に学校をきれいにするよりよい清掃の仕方を下学年に伝えるという活動のねらいを伝える
2	「南光台東小ピカピカ作戦」の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内で掃除をする場所を決める ・汚れの状態を観察し、デジカメ等で記録をする

		<ul style="list-style-type: none"> ・材質や汚れに応じた用具を調べる ・学校の技師さんにも掃除のポイントなどを聞いて調べる
3・4	「南光台東小ピカピカ作戦」の実行	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループ、計画にそって掃除をする ・清掃の成果をデジカメ等で記録する
5・6	「南光台東小ピカピカ作戦」のまとめ～ポスターづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・反省点や気付いたことをグループで話し合う ・実践のまとめとして「そうじの達人」ポスターを製作する
7	環境を考えた生活について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・リデュース、リユーズ、リサイクルについて考える ・自分たちの生活の中で具体的に生かすことができる場面を考え、話し合う



黒板の上にもほこりがいっぱい



見えない場所の汚れも落としたい





古い歯ブラシを使ってゴシゴシと

(3) 授業展開

① 第2校時 「南光台東小ピカピカ作戦」の計画を立てる

学習活動	学習支援のポイント	評価の観点・方法
<ul style="list-style-type: none"> ・学校内で掃除する場所を決める 	<p>○児童が日常よく使う場所から、掃除が必要な場所を調べさせ、児童に選択させる</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科室のコンロ・トイレのドア ・パソコン室のブラインド ・職員玄関のガラス ・水飲み場 ・図書室の本棚の上 ・教室ドアのレール ・視聴覚準備室 </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・汚れの状態を観察する 	<p>○掃除の必要性を実感させるため、実際に現場に足を向かわせ、観察の時間</p>	

	<p>を与える</p> <p>○汚れを落とす方法を具体的に予想させながら，観察させる</p> <p>○ワークシートに汚れの状態を文章と写真で具体的に記録させる</p> <p>実際に自分の目で 見たり触れたりして 確かめる</p>	
<p>・材質や汚れに応じた掃除の仕方や用具を調べる</p>	<p>○インターネット，本，家庭でのインタビューなどから情報収集させ，様々な角度から調べることができるようにする。</p> <p>インターネットで重曹の使い方や効果を調べる</p>	<p>◎世俺の種類や汚れ方にある掃除の仕方を工夫している。</p> 
<p>・掃除の手順を計画書にまとめる</p>	<p>○作業の流れや具体的な汚れの落とし方，使用する掃除用具・洗剤についてわかるようにまとめる</p>	

② 第2校時 「南光台東小ピカピカ作戦」のまとめをする

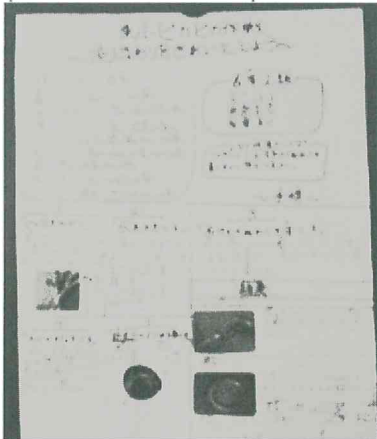
学習活動	学習支援のポイント	評価の観点・方法
<p>・「東小ピカピカ作戦」での反省点や気付いたことをグループで話し合う。</p>	<p>○実施前と実施後の写真から，掃除の成果を比較させる</p> <p>○話し合いのポイントを示し，具体的に話し合いができるようにする</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・用具の準備や使い方 ・手順や時間配分 ・仕上りの美しさ ・後片付け </div>	
<p>・「そうじの達人」ポスターを製作する</p>	<p>・見る人に分かりやすく伝わるよう，レイアウトを工夫させる</p> <p>・計画通りに進められなかった点につ</p>	<p>◎汚れの種類や汚れ方にある掃除の仕方について考えている</p>

いては改善点を考えさせる

・他のグループとの情報交換を行う

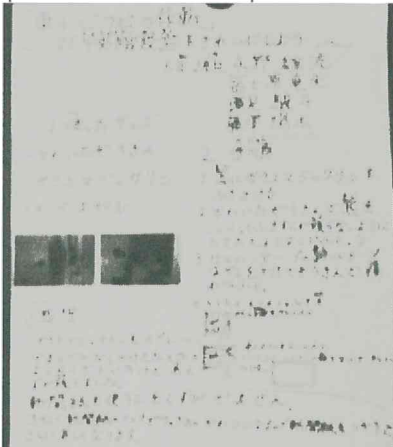
・グループの代表にポスターの内容を簡単に発表させる

・全員で確認する必要がある内容については教師が補足説明をする



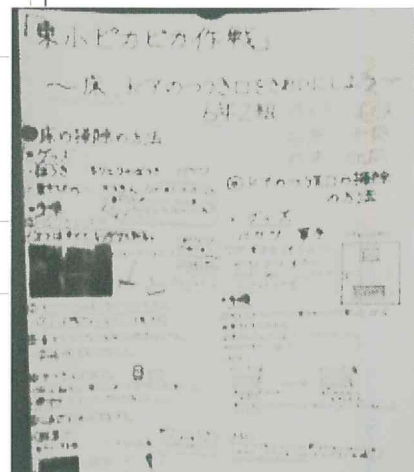
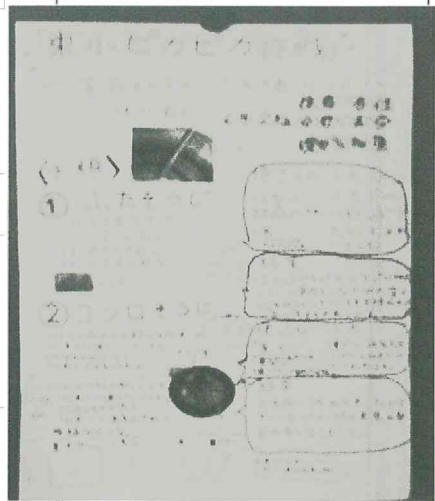
アルカリ性の洗剤や酢を使って排水溝の汚れや蛇口の汚れを落としました

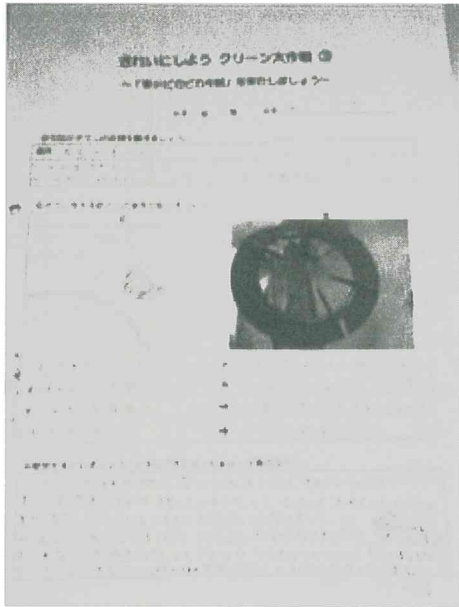
重曹を始めて使って掃除をしました。油汚れがかなりとれてびっくりしました



技師さんがガラスの磨き方のコツを教えてくださいました
テープの後もきれいにとれました

軍手をはめて、通気口のほこりを取りました
もっと狭いところには歯ブラシを使うとよさそうです





<子どもたちの感想から>

- 重曹を使ったスプレーは効果があったので使ってよかったです。掃除時間をオーバーしてしまったので時間内にできるようにしたいと思います。
- クリームクレンザーでコンロの中の汚れを落とすことが出来ました。
- 見えない部分も頑張って掃除しました。よごれに合った掃除道具を作ってみたいです。
- 蛇口が新品のようにきれいになりました。いつも気になっていた流しの掃除はやりがいがありました。これからはよごれないように使い方を気を付けていきたいと思います。
- レモン汁でコンロのふたの汚れがきれいに取れました。くだものもそうじの役に立つことがわかりました。

(4) 評価

<家庭清潔への関心・意欲・態度>

- 整理整頓や清掃に関心を持ち、身の回りを快適に整えようとしている。

<生活を創意工夫する能力>

- 身の回りを点検し、課題を見付け、整理・整頓や清掃の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。

<生活の技能>

- 汚れの種類や汚れ方に応じた適切な清掃ができる。

<家庭生活についての知識・理解>

- 汚れの種類や汚れ方に応じた適切な清掃の仕方について理解している。

(5) 今後に向けて ～日常生活に活用する力を育てるために～

・「おうちピカピカ作戦」の実施

学校のピカピカ作戦を終えて、次は家庭での実践に広がることを願い、保護者の協力も得て是非「おうちピカピカ作戦」を実施したい。今回の実践の反省を生かし、家庭でも掃除の計画を立てたり、実践したりする機会を与えたい。

今回の学びを学校生活から家庭生活に広げ、自分の家庭でどのように生かすことが出来るかを考えたり、実践する家庭の一員として家族の役に立てることを実感したりすることで、自分の家庭生活をさらに豊かなものにしようとする実践的な態度の育成につながることを期待できる。

(6) 授業実践を通して

「きれいになった!」「すっきりした!」と児童は、ピカピカ作戦から笑顔で教室に戻ってきた。計画の段階から、実践・まとめに至るまでに、自分たちで「南光台東小

ピカピカ作戦」を主体的に進めてきたので満足感が感じられる。

しかしながら、調べ方や準備の不十分さと共に、家庭での経験値の差から、調べた内容を正しく理解していなかったということもあったようである。児童にとって分かりにくい用語については丁寧に指導する必要性を感じる。

「南光台東小ピカピカ作戦」後には、今回学んだ掃除の方法や使用した掃除グッズを使って意欲的に掃除に取り組む児童が多く見られた。掃除の必要性や利点を実感したようなので、今後は毎日の清掃活動の中にも今回の実践が生かされるよう支援を心がける。

個別面談の時期に保護者にも多く見てもらいたいと考え、それぞれのグループで作った「そうじの達人」ポスターを廊下に掲示を行った。保護者からは「ピカピカ作戦の前日、張り切って用具を準備していました」「子どもたち自身でよく工夫していますね」「丁寧に分かりやすくポスターにまとめられていますね」、多くの温かい励ましのことばを頂いた。また、「これだけ学校で学習したのなら、家でも是非学びを活かしてほしい」という声も寄せられた。

家庭生活中で繰り返し実践することで、学習した知識や技能は一層定着すると考える。今後も家庭との連携を図り、児童の家庭科の学習に対する関心を高め、生活力を身に付けさせたい。

5 日常生活で活用する力を育むために

基礎的・基本的な知識や技能は日常生活に関連のある学習場面において、子供自身が主体的に知識や技能を生かし、自分の考えを働かせながら工夫する経験を繰り返す中で身に付けていくものであるといえる。

よって、次の各事項については特に配慮しながら進めることが重要である。

(1) 生活について見直し、課題を見付ける

生活を実感できるような実践的・体験的な活動を計画的に設定し、自分や家族がどのように家庭で生活しているかに関心をもたせ、問題意識をもてるようにすることが大切である。

(2) 情報収集した事柄について比較検討する

これまでの生活や経験、家庭でのインタビューなどから情報を収集し、課題について様々な角度から考えることができるようにしたい。なぜだろうと疑問を持ったことについて仮説をたてて考えたり、比較検討したりしてそれぞれのメリット・デメリットを明らかにするようにする。

(3) 計画を立てて実践し、振り返る

子どもたちが見通しをもって学習に取り組めるよう、学習環境の整備とともに、標本や資料、DVDやPCなどの教材教具を効果的に活用できるように工夫する必要がある。

また、学習活動の過程について記録したり、課題の達成状況を振り返り、次の課題を明確にしたりすることが大切である。

さらに実践結果の発表は成就感・達成感をもたせるとともに自分が取り組まなかった課題についても理解を深めることができるようにしたい。

(4) 家庭と連携し、実践する喜びを味わわせる

学習したことについて、家庭で実践し、実生活で活用できることを実感することが大切である。自分にもできるようになったという達成感や満足感を味わったり、家族の一員として家族の役に立っているという喜びを実感したりすることが生活をより良くしようとする意欲につながっていく。題材の指導計画に家庭での実践を位置づけ、家庭との連携を図ること、保護者等へ家庭科の学習内容について知らせたり、家庭での実践への協力を依頼したりすることなどは重要であろう。

(5) 自分の成長を実感できる評価を工夫する

実践への意欲を高めるためには子供自身が学習している事柄やその成果を感じ取り、「できるようになった自分」を自覚できるようにしたい。ワークシートへの記入や教師のコメント、家族の励ましやアドバイスなどを記入する欄など工夫したい。

以上の点に留意しながら、場面に応じて知識や技能を使いこなすことの意味や面白さに気付いたり、自分にもできたという自信を持ったりすることで生活に生かそうとする意欲が高まり、知識や技能も身についていく。それを繰り返すことで、日常生活の様々な場面で状況に応じて知識や技能を活用する能力を育てていくことができる考える。

参考文献

- ・小学校わたしたちの家庭科 5, 6年 開隆堂出版 P25~33, P74~77
- ・初等教育資料 平成 27 年 10 月号 No932 論説 3 東洋館出版 P30~39
- ・初等教育資料 平成 28 年 2 月号 No.937 論説 4 東洋館出版 P24~27 P66~67
- ・小学校学習指導要領 家庭編 平成 20 年 8 月 東洋館出版 P37~43